

笑い声とおしゃべりのある歩道整備に向けて

1. 概要

今までの道路整備は自動車の交通機能を対象としていたが、近年地域の活性化や人とのふれあい等が見直され、コミュニティー道路や歩行者専用道路、自転車道など、道路を人のつながりの場とした公共施設とする動きが、局部的に進められている。また、地域の人の憩いの場・活気のある地域づくりの一環としての歩道空間の整備も注目されようとしているが、実際の整備はあまり行われていないのが現実である。今後整備を誘発するにはどうすれば良いだろうか。道路整備の面から考えてみました。

コミュニティー道路や歩道の空間整備のメリット

人と人のふれあいの増加	高齢者と子供等、同世代以外とのふれあいの場となり、経験や遊びの継承が期待できる 子供を多くの人が見守れる場となり、子供が安心して遊べる
道がつなくまちづくり	賑わいのある道がまちに活気を呼ぶ 活気のあるまちとつながることで周辺地域全体に活気生まれる
まちの活性化	商店街等への活気の回復 街並みの整備

2. 現在の道路整備

現在の道路整備は、その多くが自動車を対象とし、自動車の交通機能が向上することを目的としている。これは、交通渋滞の緩和や、時間短縮効果による物流の円滑化など数値として評価できることが大きな一因となっていると考えられる。近年では、自動車の走りやすさを指標化し、評価指標として取り扱うなども行われている。

走りやすさマップ



出典：国道交通省 九州地方整備局

では、実際に行われている歩道の整備で見ると、自転車道との分離は増加傾向にある歩行者と自転車の事故が減少するという数値として評価が可能である。また、十分な幅員の確保についても自転車二台と車いすがすれ違える幅は確保できる等の指標が存在する。

歩道を通行する際の幅

	人 (成人男子荷物等なし)	自転車	車いす	杖使用者 (2本)	シルバーカー
静止状態	幅 45cm	幅 60cm	幅 70cm	幅 90cm	幅 70cm
通行時	幅 70 ~ 75 cm	幅 100cm	幅 100cm	幅 120cm	幅 100cm

出典：名古屋市

しかし、地域の人の憩いの場・活気のある地域づくりの一環としての歩道空間の整備・安心安全な歩道の整備等については、明確な指標が存在せず、整備を行う上での方針が立てづらい状態と言える。

3. 笑い声とおしゃべりのある歩道

笑い声とおしゃべりのある歩道（地域に求められる歩道）とはどんな物だろうか？求められる機能を4つの項目（安心安全・滞留空間・快適性・景観）に分け、整理した。

安心と安全

通学路や公園・広場等という点に関して、以下のような安心安全性の評価項目を考えた。

- 歩道が設置されている（両側・片側・なし）
- 車道との境界に柵が設けられているか【ガードレール・ガードパイプ】（あり・なし）
- 自転車道と歩道が分離されている（カラー化等完全に分離・一応分離・非分離）
- 照明灯があり、夜間も明かりを確保できているか（十分・多少・なし）
- 四方に死角がない【不審者の防止】（死角の数）

滞留空間

散歩・空間利用という点に関して、以下のような滞留空間の評価項目を考えた。

- 歩道幅員が確保されている
- 一部歩道幅員が広い
- ベンチ等休憩できるスペースがある。
- 歩行者専用道路とし、子供の遊べる空間の確保

快適性

過ごしやすい環境という点に関して、快適性の評価項目を考えた。

- 植樹帯がある
- 急勾配でない
- 日除け・雨除けがある

景観

その地域の特性・眺望という点に関して、景観の評価項目を考えた。

- 景観がよい
- 地域の風景がある
- 張ブロックの歩道

4. 歩道の性格と評価手法

評価をするに当たっては、すべての機能を満足する必要はなく、求められる機能の充実を図るべきである。(例えば、海が近い場所なら、景観に配慮し、滞留空間を確保すれば、お散歩コースとして有効利用される等。)

その土地の性格や、その歩道の用途を理解した上で求められる機能を整理し、現況の機能に足りない機能を整備するという流れを考えている。

整備目標の例

	通学路・子供の通行が多い	お散歩コース	トレーニングコース (マラソン等)	観光コース (観光に力を入れる)
安心と安全	歩道の有無			
	歩車道境界の柵	-	-	-
	自転車道の分離			
照明灯		-	-	
	死角	-	-	
滞留空間	十分な歩道幅員		-	
	拡幅部	-	-	
	休憩スペース	-	-	
	歩行者専用道路		-	
快適性	植樹帯	-		-
	急勾配		-	-
景観	日よけ・雨避け	-		
	良好な景観	-		
地域の風景	-			
整備イメージ	出来るだけ安全な歩道	休憩スペース等の充実	植樹帯の整備や景観面の充実	景観や町の特徴を楽しむ空間整備

評価の例

目標を“海に見える眺望重視の道”と設定する例



出展：はしもの国内旅行情報交換室

	現況	目標値
安心と安全	歩道の有無	
	歩車道境界の柵	-
	自転車道の分離	-
照明灯		-
	死角	-
滞留空間	十分な歩道幅員	-
	拡幅部	-
	休憩スペース	-
	歩行者専用道路	-
快適性	植樹帯	-
	急勾配	-
景観	日よけ・雨避け	-
	良好な景観	
地域の風景		

必要な整備

両側歩道の設置
自転車道の分離
休憩スペース等眺望を楽しむ空間の整備